

実績報告書

届出者	住所	大阪府貝塚市二色南町16番地	氏名	株式会社明治 関西工場 工場長 田崎 裕
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		大阪府内に4工場が操業し、主に菓子・乳製品の生産処理及び販売を行っている。 (関西工場、関西アイスクリーム工場、関西栄養食工場、大阪工場、関西支社)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	49,125 t-CO ₂	49,225 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	52,541 t-CO ₂	52,732 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (26 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3.228 %	-1.2 %	2.7 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	0.3 %	2.5 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (当工場の生産重量)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
<p>生産工場は生産重量(t)として統一しており、販売を行う関西支社については、原単位を算出不能のため、電気使用量のみ合算している。</p>	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>基準年度に対し、第1年度は-1.2%であったが第2年度は2.7%と改善されている。15年度に対しての生産重量は、98.9%と減少しているが、温室効果ガス排出量は95.0%と良化傾向となっている。この結果は、コージェネ運転から1年が経過したことに加え、各工場全体の省エネ活動推進の結果となっている。引き続き、省エネ活動を一層活性化して、温暖化防止への取り組みに努めていきたい。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

毎月の環境管理推進委員会にてエネルギー使用量とCO2排出量の状況把握と原因追究を行うことで、無駄なエネルギー使用の低減に努めている。また、省エネルギーの目標を定め、計画的に改善ができるよう進捗管理を行い、排出量の低減に向けて取り組みを行っている。各工場にて、デマンド制御を行い冷凍機や排水ブロワー等の機器の停止を行うことでピークカット対策を実施している。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱 平準化				
1	レ	GHG排出	関西工場	コード (1125) 蒸気配管の保温	蒸気配管の保温不足部位に保温を施し、放熱ロス (燃焼ロス) 低減を図る。 ★削減効果：年間8t-CO2	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西工場	コード (1211) 高効率ボイラーへの更新	関西工場新設時のボイラーを最新機種へ更新する。 ★削減効果：年間337t-CO2	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) 高効率エアークOMPレッサの導入	高圧エアークOMPレッサを最新機種に更新し、台数制御を行い省エネを図る。 ★削減効果：年間116t-CO2	28 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西工場	コード (1113) 殺菌機付帯設備の適性化	殺菌機付帯設備を削減し、電気使用量の低減を図る。 ★削減効果：年間88t-CO2	28 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1218) 照明設備分割による電力削減	空調機械室2 照明切り分け洗濯機を使用するのに、全体の照明を点灯させていたため、回路を分けて、部屋の半分のみ、照明を付けるように変更 ★削減効果：年間0.24 t-CO2	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1113) 冷却能力適正化による電力削減	1、2急凍庫内温度適正化 これまで-40℃の設定としていたが、冷やしすぎて電力ロスがあったので、適正な温度に変更する。 ※38℃設定 ★削減効果：年間26 t-CO2	27 年度
	レ	人工排熱				27 年度
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1215) インバータ化による電力削減	冷凍機過冷却ユニット冷却水ポンプINV化 現在、バルブを絞って流量調整しているが、INVを導入し、省エネを図る。 ★投資効果が少なく案件見直し中	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1112) 仕込みロスによるエネルギー削減	仕込みロス削減 ロスマップ作成により仕込みロスを削減し、追加仕込みエネルギー削減。 ★ロス対策実施による効果検証中	27 年度
	レ	人工排熱				28 年度
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1125) 放熱ロス対策	パレタイズ室陽圧 -18℃のパレタイズ室に包装室からの暖気が入り込み冷凍設備の負荷となっている。室内を陽圧に保ち冷凍機の負荷軽減を図る。 ★ 投資効果：13t-CO2	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
		平準化				
10	レ	GHG排出	関西アイスクリーム工場	コード (1125) 放熱ロス対策	天井裏蒸気配管保温 天井裏150A、100Aの配管吊り部を、保温することで省エネを図る。 ★29年度中に工事実施予定	27 年度
	レ	人工排熱				29 年度
	レ	平準化				

11	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1121) 蒸気送気圧力最適化による燃料削減	高圧蒸気圧力を要求しない生産設備停止時に、自動で送気圧力を下げて省エネを図る。 ★削減効果：年間96.7t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1113) 加温設定値最適化による燃料削減	RO設備は原水を25℃まで加温することで透過率向上を図っていたが、20℃に加温設定を変更し、蒸気使用量を削減する。 ★削減効果：年間2.73t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1121) 蒸気送気圧力最適化による燃料削減	空調冷水用吸収式冷凍機の冷却水量が過剰だったため、最適な値になるようインバータ設定周波数を変更する。 ★削減効果：年間19.9t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
14	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1113) 加温設定値最適化による燃料削減	滅菌機の水運転待機時に、系内流量を自動で半減させ、以って熱源負荷および使用電力量を削減する。 ★削減効果：年間15.2t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1126) インバータ設定最適化	CIPブロー水とCIP送りをプレートで熱交換させ、排水に捨てていた熱を回収する。 ★削減効果：年間9.7t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	関西栄養食工場	コード(1122) 不要な加熱・冷却の停止	中間品検査室が無人な時間帯に、自動で換気を停止させる。 ★削減効果：年間3.7t-CO2	27年度
	レ	人工排熱				28年度
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1218) 照明設備のLED化	工場内の照明設備をLED照明に更新する。 (年間30t-CO2削減見込み) H27年度：実施 4t削減 H28年度：実施 14t削減 H29年度：継続実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 高効率ブロワーへの更新	排水処理場の曝気ブロワーを高効率ブロワーに更新する。 (年間188t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 61t削減	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 高効率冷凍設備への更新	生産プロセス用の冷凍設備を高効率タイプに更新する。 (年間47t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 40t削減	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1215) 用水ポンプ高効率モーターへの更新	用水ポンプのモーターを高効率モーターに更新する。 (年間47t-CO2削減見込み) H27年度：実施 26t削減 H28年度：未実施	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1211) 高効率ボイラーへの更新	小型還流ボイラーを高効率タイプに更新する。 (年間49t-CO2削減見込み) H27年度：実施 42t削減 完了	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
22	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1113) 圧縮エア供給の適正化	生産設備への圧縮エア供給を電気制御により適正化する。 (年間26t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 84t削減	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
23	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1113) 保温ヒーター停止	未生産時にチョコ生地保温用ヒーターを停止できるように設備を改善する。 (年間31t-CO2削減見込み) H27年度：実施 5t削減 完了	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	大阪工場	コード(1216) 高効率チラーユニットへの更新	ガス吸収式冷温水機を高効率チラー(電気式)に更新する。 (年間112t-CO2削減見込み) H27年度：検討 H28年度：実施 194t削減	27年度
	レ	人工排熱				29年度
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2123) 余分な荷物を積まない	車内の不要な荷物は帰社時に持ち帰る	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2114) 日常点検の徹底	日常点検（ランプ、タイヤの空気圧、エンジンオイル）、及びオイルの定期的な交換実施 ※継続実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2123) 不要なアイドルリングを慎む	待機スペース等を利用し、こまめにエンジンを切る	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2123) 急のつく運転はしない	適切なシフトアップとエンジンプレーキの励行 ※継続実施	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2123) 安全速度での走行	安全速度（グリーンゾーンでの回転数）での走行の徹底 ※継続実施中	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	関西支社、 関西工場、 関西アイスクリーム工場、 関西栄	コード (2123) 適切なエアコンの使用	エアコンの温度、風量を抑える	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区丸の内2-1-1	氏名	明治安田生命保険相互会社 代表執行役社長 根岸 秋男 印
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業，保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		生命保険の販売を業としており、販売拠点としての営業所の他に資産運用目的で賃貸ビルを保有しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	11,771 t-CO ₂	11,478 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,198 t-CO ₂	12,794 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0 %	0 %	0 %
	レ	削減率(原単位ベース)	3 %	1.2 %	0.1 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	8.8 %	7.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内の不動産の保有延床面積)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>当社使用のエネルギー量は、保有不動産面積により変動してしまう為、t-CO₂/延床面積の基準でトータル削減率3%を目標として掲げています。</p> <p>平成28年度の実績として、計画的に照明・空調等の設備更新を実施した他、全社的な夏期・冬期の節電強化月間をはじめとする各種諸対策を講じておりましたが、猛暑などの気候変動の影響もあり対基準年度比で0.1%削減となりました。なお、本計画期間における最終年度目標達成に向けて、継続的な啓蒙活動を実施しつつ省エネに帰する設備投資についても順次検討していきます。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> ・全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムの導入を進めており、大阪府内においては、計画期間に2店舗でISO14001を認証取得し、全店舗での認証取得を目指します。 ・社長を本部長とする地球温暖化対策推進本部を設置し、毎月、対策の進捗状況を報告し、現状改善などを検討するとともに、店舗毎に、2ヶ月に一度温暖化防止に関する研修会を実施しており、本体制を継続していきます。
<ul style="list-style-type: none"> ・全社的にBEMSを導入し、電力デマンド制御を行うことで効率的な電力削減に取り組んでいます。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 省エネタイプの照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備(Hf蛍光ランプ)を導入していく。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(4999) 階段の積極的な利用	上下2フロアでの行き来には、エレベーターではなく階段を積極的に利用を促進	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1216) 空調機の省エネタイプの導入促進	空調機の更新時には、省エネタイプの空調機へ順次導入していく。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(4210) 日射遮蔽フィルムの設置	夏季における営業所内の気温上昇を抑制する為、窓に日射遮蔽フィルムの設置	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1217) 換気装置へのCO2センサー取付	換気装置へのCO2センサー取付による、換気装置の電力消費低減を図る。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪御堂筋ビル	コード(1218) 共用廊下における照明のLED化	共用廊下等における照明をLED化することで電力消費低減を図る。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪御堂筋ビル	コード(1218) 誘導灯のLED化	誘導灯更新時に、節電効果が見込めるLEDタイプへの更新実施。平成24年度工事完了。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪梅田ビル	コード(1216) 共用廊下における照明のLED化	共用廊下等における照明をLED化することで電力消費低減を図る。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪梅田ビル	コード(1218) 誘導灯のLED化	誘導灯更新時に、節電効果が見込めるLEDタイプへの更新実施。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	全ての事業所	コード(1218) 電力消費の見える化促進	電力の見える化を計り、目標デマンド値を超過しそうな場合に本社操作より、電力消費の抑制を図る。	27年度～ 29年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2122) 公共交通機関 等を積極的に 活用	社内車に関しては出来る限り公共交通機 関を利用するように心掛ける。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導 入	積極的に低燃費車を導入することによ り、エネルギー削減を図る。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3)その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	名古屋市東区葵2丁目12-8	氏名	名鉄運輸株式会社 取締役社長 内田 互
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>当社は、北は北海道から南は沖縄まで全国ネットを構成する「名鉄運輸グループ」の中核となっており、路線・区域・宅配・引越・流通倉庫・航空貨物など一貫輸送体制による総合物流事業を展開し、多様化するお客様の物流ニーズにお応えしています。当社の環境方針は、輸送サービスの提供という事業活動から生ずる環境への種々の影響を低減することが社会的責任の一つと認識し、「環境にやさしい名鉄運輸」の実現のために社員一人ひとりを含めた社内全組織の連携により、環境問題に積極的に取り組んでまいります。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	7,864 t-CO ₂	7,722 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,005 t-CO ₂	7,808 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.7 %	5 %	1.9 %	0 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	6.1 %	2.5 %	0 %	
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

<p>こまめに電気を消し無駄に使用しない</p>	
--------------------------	--

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱 の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	全て	コード(2112)	節電・省エネ	27 年度 ～ 28 年度
	GHG排出				
	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	大阪府柏原市円明町 888-1	氏名	株式会社 メイワパックス 代表取締役 増田 淳
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		軟包装材料製造販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	6,345 t-CO ₂	6,261 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,786 t-CO ₂	6,651 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量	0 t-CO ₂	

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	0 %	0 %	0 %	0 %
	レ	3 %	2.7 %	-2.4 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	3.8 %	-1.7 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (加工メーター)	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

生産数量の落ち込みにより原単位が悪化した。

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

環境推進委員会を毎年実施し部署ごとの原単位を把握し省エネルギーを推進する。

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・工場	コード (1113) 管理標準の徹底	管理標準の徹底	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2		GHG排出	本社・工場	コード (1199) 生産量により稼働時間の調整を実施。	夏季ピークの電力量を抑制するために生産機械の稼働を生産量に合わせ柔軟に調整する。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (5112) LED照明への取り換え。	老朽化により使えなくなった蛍光灯、水銀灯を順次LEDへ更新していく。 H27年度一部実施。	27 年度 ～ 30 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・工場	コード (2114) エコドライブの推進	エコドライブを実施し省エネに努める。	27 年度 ～ 30 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策

実績報告書

届出者	住所	東京都中央区八重洲2-7-15	氏名	株式会社メディセオ 代表取締役 長福 恭弘
特定事業者の主たる業種		55 その他の卸売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		医薬品、医薬部外品、試薬、医療機器、介護用品等に関する総合卸売業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	
平成 27 年 4 月 1 日～	平成 30 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度(26)年度	前年度(28)年度
温室効果ガス総排出量	4,283 t-CO ₂	4,146 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,283 t-CO ₂	4,522 t-CO ₂
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO ₂

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (29 年度)	第1年度 (27 年度)	第2年度 (28 年度)	第3年度 (0 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3 %	3.5 %	3.2 %
		削減率(原単位ベース)	0 %	0 %	0 %
削減率(平準化補正ベース)		— %	-4.8 %	-5.6 %	0 %
吸収量による削減率		0 %	0 %	0 %	0 %

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()	
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

(4) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理)

【自動車分野】	<p>① 車両台数最適化させるべく前年度と比較し4台減少。引き続き、軽自動車への切替を促進中。</p> <p>② 軽自動車・普通車の入替に関して、低燃費車両を導入することで燃料使用量を6.7%削減。</p> <p>③ 結果として、前年度と比較し温室効果ガス総排出量の削減につながる。</p>
【産業・業務分野】	<p>全社的に節電意識を持たせ、不要時の電源オフを徹底。しかしながら、全体の電力供給量が増し、前年比0.8%増加となった。</p>

◎ 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策

(1) 推進体制

(2) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1215) 不要時の電源 オフ	不要時の事務機器や照明器具の電源をオフにする	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 省エネ照明設 備の導入	省エネ効果のある照明設備の導入を順次進める	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	南大阪ALC	コード (1215) デマンド監視 装置導入	デマンド監視装置を導入し、ピーク時の電力抑制実施。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱 の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導 入	リース車両更新時に低燃費車を導入する。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2226) 軽自動車への 切り替え	走行距離の少ない車両について、リース車両更新時に軽自動車へ切り替える。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ 啓発ビデオ作 成	全車両においてエコドライブを浸透させるべく、社内イントラネット上に自社で製作した啓発ビデオを準備。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2114) 定期車両点検 の徹底	全ての車両で3ヶ月毎の定期点検実施を徹底。タイヤ空気圧の適正化等、良好な整備状態を維持。	27 年度 ～ 29 年度
	レ	人工排熱				

(3) その他の抑制対策
